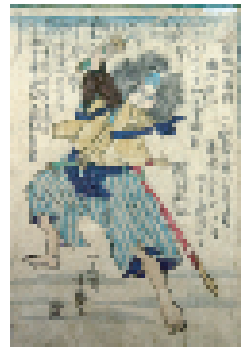




城里町に関係のある登場人物紹介 ①

◆ 鯉淵 要人 (十八烈士)
こいぶち かなめ



「近世明義傳」/鯉淵晴人氏所蔵

文化7年(1810年)1月7日
安政7年(1860年)3月3日
負傷のため自刃/51歳/水戸領茨城郡古内村(城里町)神官

名は珍陳。父は鯉淵数馬義重、母は桜井氏乃伊。代々、上古内村諏訪神社の神官。東茨城郡加倉井の国学者加倉井砂山の塾に入って国学を、水戸の道場では剣術を学びながら若い武士たちと交友を交えた。天保の初め頃、父の後を継ぎ神官となる。誠実な性格が氏子の信頼を受け近村数社の顧問となって神道の普及に努めるかたわら、産業の振興や若者の教育にも力を注いだ。齊昭公が藩主になると水戸領の神官たちは優遇された。「追鳥狩」に参加するなど、郷土並みの待遇を受ける。彼らはやがて水戸藩政に混乱が見られると、尊攘派・齊昭派として政治的な

行動も起こすようになった。要人は距離的にも近い静神社の斎藤監物に感化を受け、行動を共にしたことが多い。弘化年間の齊昭雪冤運動で、老中阿部正弘への歎願にも従った。そのため、藩庁からしばらく城下赤沼の獄に幽閉された。齊昭が再び藩の政権を握ると許され、尊攘派として積極的に参加し、行動していった。安政5年の「戊午の密勅」降下には、その全国への回達を主張し、「安政の大獄」では、その処分撤回を主張して行動した。

安政7年2月、斎藤とともに水戸を脱す。3月3日は左翼(武家屋敷側)から襲撃に参加、左肩や鼻、唇に刀を受けながらもひるまなかつた。深手を受けながら現場を脱し日比谷御門を抜けるが、八代州河岸で力尽き、織田兵部少輔邸脇にて山口辰之介とともに自刃した。死後、家人が冠服の襟に縫い付けてあった書置きを見つけたという。墓所は上古内地区の自宅墓所。贈正五位。

参考文献 水戸藩開藩四百年記念『桜田門外ノ変』映画化支援の会「かわら版(第十五号)」より

映画「桜田門外ノ変」オープンセット見学について

★オープンロケセット公開スケジュール★

平成22年4月4日まで	オープンセットを撮影したままの状態で開催しています。
平成22年4月5日から4月下旬(予定)まで	米沢藩邸を記念展示館にするための改修工事が行われるため、米沢藩邸の見学ができなくなります。

★オープンロケセット及び記念展示館公開スケジュール★

平成22年4月下旬(予定)～平成23年3月31日

※使用期限が4月4日までの「オープンロケセット先行入場券」をお持ちの皆様へ

「オープンロケセット先行入場券」の使用期間が延長され、4月5日から平成23年3月31日までこちらの入場券で「オープンロケセット及び記念展示館」への入場ができるようになりました。

問合せ 映画『桜田門外ノ変』城里町支援の会事務局(産業振興課内) ☎029-288-3111 (内線381)

『木喰微笑仏』油絵展の開催について

木喰(もくじき)は、江戸時代に全国を行脚し、60歳を迎えてから93歳で亡くなるまで数々の仏像を生み出した修行僧です。現在残されている仏像は600体を越えます。独特の微笑をたたえた木喰仏は「微笑仏(みしょうぶつ)」と呼ばれ、今も人々を魅了しつづけています。

微笑仏に魅せられ、油彩で描いている石井清嗣氏(水戸市在住)の絵画展が、仏国寺(塩子地区)ゆかりの木喰(もくじき)上人没後200年にあたり開催されます。ご来場ください。

会場/会期 ○コミュニティセンター城里「ロビー」/5月19日(水)～6月1日(火) ※月曜休館
○物産センター山桜隣「活性化施設 会議室」/6月3日(木)～6月21日(月) ※火曜休館

問合せ 教育委員会事務局 ☎029-288-3135